

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600531		
法人名	有限会社		
事業所名	(有)ことぶき会グループホームファミリーハウス おうな棟		
所在地	長崎県五島市吉田町3100番地1		
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和7年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 6 年 12 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ファミリーハウスではゆっくりとした雰囲気の中で利用者それぞれが時間を自由に使い、楽しく生活出来るように心がけている。日課は大きな行事以外はあえて決めておらず利用者が自分のやりたい事を選択できるようにしている。食事作りや洗濯物など利用者の方たちにも手伝っていただき生活の中で自分の役割を実感していただけるようにしている。行事を多く企画しており、初詣、節分、ひな祭り、花見、そうめん流し、七夕、敬老会、クリスマス忘年会など年間を通して楽しんでいただけるようにしている。また、それ以外にも保育園や日本舞踊などのボランティアも来られ、踊りや演奏をしてもらっている。玄関前には池があり利用者が餌をあげたり、外でおやつを食べたりすることができる。子供の日の前には鯉のぼりを設置し、地域の方々にも楽しんでもらえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の“その人らしく生きていく”為に、職員は疑似家族となって、利用者の思いを推し量り支援に繋げている。食事は職員手作りで、利用者も下準備を手伝っており、本人にとって生活の手伝いが生きがいとなっている。利用者同士が話に興じ、職員の優しい声掛けや自然なサポートは、家族のようである。庭の鯉のぼりやクリスマスイルミネーションなどは地域のシンボルとなり、地域乗合タクシーへの協力からも地域密着が窺える。季節行事を催し、楽しみの様子を写真に残し家族へ届けている他、家族への手厚いサポートは、安心に繋がっており信頼感が増している。社長自ら現場に従事し、フットワークの軽さから早急に職員意見を改善に繋げる等、働きやすい職場環境となっている。誕生日は、黄色や紫のちゃんちゃんこで祝っており、人生の輝くポイントを重視している。利用者が楽しく過ごせるよう、理念の実践に努める事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフがいつでも見れるように、皆が集う居間に設置している。毎日の業務遂行時に必要に応じて話し合い、理念の実施を目指している。	事業所は理念を掛軸に掲げ、玄関にも掲示している。社長は理念定着の為、利用者に優しく接するよう、常々職員に伝えている。職員は、利用者が口に出すことができない思いを、家族の代わりに推し量り、その人らしく生活できるよう支援している。在籍年数の長い職員も多く、利用者の穏やかな様子から、理念の浸透が窺える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。時々地域の消防団の方々が夜回りをして下さっている。その際は必ず電話で何時頃巡回をしますという連絡がある	毎年春に、事業所庭に掲げる鯉のぼりは地域のシンボルであり、職員手書きのイラスト画やクリスマスイルミネーション飾りを再開し、地域住民を楽しませている。ボランティア「舞の会」の踊り披露や園児からプレゼントが届く他、散歩時の挨拶や農作物の差し入れなどの交流や乗合タクシー停留場など地域とのつながりが深い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者及び家族、職員、取引業者、ボランティア活動で来てくださった方々をお呼びして、年に一度交流会を実施している。この中で時間を取って家族会も行っている。ホームページも定期的に更新し外部への配信も行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度奇数月に開催している。写真を提示してサービスの内容や活動の報告、話し合いを行っている。	令和6年9月より、2ヶ月毎の対面会議を再開しており、写真を提示して行事報告や利用者の近況を報告している。参加者メンバーから、行事の際の利用者の笑顔が多いことや職員への労いの言葉があり、その意見を職員の励みとしている。また、家族会の実現等、家族の意見を活かした事例がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報の収集や提供をしながら市役所の長寿介護課との連携を密にしている。分からないことがあればすぐに聞けるような体制をとっている。	事業所の近況を報告したり、不明点はメールで問合せ、折返しの返信がある。また、市から空床の問合せがある他、市が経営する乗合タクシー「チョイソコごとう」のバス停留所として、事業所庭を提供している。市から案内の人材確保やリフティングケアに関する研修案内には、社長が参加し、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関などの施錠はせず、声掛けで納得していただいている。気を紛らわせる為に利用者個々の必要なケアに応じて散歩やレクリエーション、職員が寄り添って会話をするなどしている。また年に2回身体拘束防止研修を通して職員間で理解を深めている。	身体的拘束等の適正の為の委員会を毎月の主任会議にて開催している。年2回、研修を通じて身体拘束の具体的な行為について理解を深めている。玄関の施錠はなく、外出したい利用者には、職員と一緒に庭を回ったり、鯉の餌をあげる等、気分転換を図っている。また、隣りを訪問する等、拘束のない支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を実施設置している。虐待防止の研修会があれば参加し、ケアカンファレンス等で発表したり、施設内研修を年に1回以上行い理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する事案がずっとないので聞きに行ったりする事は無いが、そういう状況になれば社協に相談したりして理解を深めるという事はできる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には重要事項説明書などしっかり説明している。また、日頃から疑問に思うことなど電話や面会時に説明させていただいている。また、利用者や家族が気軽に尋ねられる環境作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿に意見、要望欄を設けており、気軽に書けるようにしている。面会時には利用者の近況を説明しながら家族の意向を聞いたり、導き出すようにしている。	利用開始時、事業所は苦情相談体制を説明している。職員は、毎月写真付きの活動報告を送付したり、家族の面会時や電話・オンライン等、家族が意見や要望を表出しやすい雰囲気作りに努めている。運営推進会議での家族の意見も汲み、家族会の再開に繋がっており、家族の意見をサービス向上に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のケース会議、二ヶ月に一度の合同ケース会議でスタッフに意見を出してもらい処遇等を話し合ったり、テーマを設けて研修会を行っている。	毎月、ケース会議、合同ケース会議、研修など、職員が意見を表す場がある。また、普段から代表や管理者に相談しやすい関係である。会話する機会も多いため、業務について職員の提案を反映している。事業所の物品購入、シフトや希望休、業務内容など、職員の声を大切にしており、より良い職場環境の実現に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が要望等を言いやすい関係性を作れていると思っている。全介護職員において、6月と11月に事業所独自の評価表にて評価を行い、その結果に応じて、処遇改善加算金による賞与をわたしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われるケース会議ではお互いに意見を出し合いケアの向上に努めている。島内の研修やオンライン研修など、参加できるものは参加するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の参加や島内研修会へ参加して交流意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話や生活の様子を見ながら信頼関係を築けるように努め、馴染みの人、場所となり利用者が安心して生活できるように支援し要望、意見を聞くように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に要望など聞き、ご家族様が安心してできるように努めている。面会時には利用者様の様子を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の要望に応える事ができるように面会時にも話を聞き必要であれば歯科受診、訪問看護、在宅酸素の利用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で一緒に洗濯物をたたんだり、掃除や食事を作ったりなどして家族のように生活をしていると思っていただけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会時に日頃の様子を報告し、必要なことは協力要請するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅願望がある利用者には家族に連絡して帰宅支援を行っている。	入居時、家族や本人面談から馴染みの関係の把握に努めている。日常会話から得た情報は日誌へ記録し職員間で共有している。家族や知人、神父の訪問がある。編み物や日記、読書や俳句の会など、これまでの生活習慣を支援している。収集した利用者の生活歴については、これから書面化と整理を行う予定である。	安定したサービスを提供するためにも、知り得た情報を共有化する書面の整備が必要である。今後の取組に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で洗濯物たたみ、食事の準備でコミュニケーションを取るようになっている。また、おやつ時にはホールに集まりコミュニケーションの場になっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の意向により退所する場合には次の施設への申し込みや情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や要望が聞かれた時は速やかに満たせるように努力している。訴えることができない利用者は日常生活を観察し必要な事は何か考えるように努めている。	職員は、利用者と普段の会話を大切にしている。利用者同士の会話からも思いの把握に努めている。利用者の様子に応じて、家族の協力を得て、意向を検討している。介護経過記録で、職員は情報を共有している。起床時間や居室での過ごし方、趣味活動など、利用者の意向を反映した支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から生活歴を聞き、入所後も自宅で生活している時と変わりがないように自宅の様子を再現したり馴染みの物を持って来てもらうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が出来る事は自分でしてもらうように取り組んでいる。細かい時間設定はしておらず利用者が自由に時間を過ごせるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回全職員参加でカンファレンスを行い、利用者個々に必要なケアについて意見やアイデアを出し合い介護計画につなげている。	入居時の暫定プランは、事業所の生活に慣れてもらうためのプランを入れ、2週間を目途に見極め、本人・家族同意を得て、本プランへ移行している。モニタリングは3ヶ月毎で、面会時や電話で家族意見を尋ね、全職員の意見を基に見直しを行っている。ただし本人、家族の意向に変化が見られない。	本人のより良い暮らしの継続のため、これまでの生活歴を振り返り、日頃から発する言葉と照し合わせるなど、介護計画に繋げることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに介護記録を書き、職員は必ず目を通すようにしている。職員間での連絡ノートがあり読んだらサインするようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の変化や気付いたことを職員間で報告し合いながら適切なサービスが提供できるように取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室から2ヶ月に1回、訪問理容に来ていただいたり、日本舞踊のボランティア訪問などの交流を楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が入所前に通院していた医療機関を引き続き受診するようにしている。家族からの要望で医療機関を決めたり、変更することもある。	入居以前のかかりつけ医を受診しており、入居後に往診対応がある協力医に変更する場合もある。希望者のみ協力医の月1回の往診を受けている。他診療科含め職員が支援し、眼科や検査等は家族の場合もあり、受診結果は家族から職員に報告がある。体調変化には早めの対応を心掛け、適切に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、利用者の体調の変化観察をし記録はいつでも職員が見られるようにしている。体調の変化があったら速やかに主治医の診察を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に主治医からの説明を利用者、家族と共に聞き、治療方法や期間を理解し、入院中も家族や医療機関との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の考えを家族に聞き、意思確認を行い、終末期が近づいた時点で再度確認する。終末期を迎える前に主治医の説明を家族と共に聞き今後の対応を話し合うようにしている。	入居時に、事業所の看取り体制を本人・家族と共有しており、現時点での終末期の迎え方を看取り介護の希望確認書にて尋ねている。主治医により終末期と判断された際は、職員は家族と共に医師の説明を聞き、再度、家族に意思確認を行っている。近年は、看取りの事例はなく、事業所のできる限りの対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員の指導の下、緊急時の救命法を学び瞬時に適切な対応ができるように努力している。火災時の通報装置の使用法や避難訓練も定期的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災訓練は定期的に行い、通報装置の使用方法や避難訓練の手順などを消防署員の指導の下行っている。また、自然災害対策避難計画マニュアルを作成し、発電機や卓上コンロ等の物品や飲料水等の備蓄を行っている。	年2回、消防設備会社立会いの下、避難誘導や水消火器を使用した火災訓練を夜間想定で実施している。消防署の立会いも1回あり、訓練後は、救命法の講習会を行っている。自然災害は発電機を使用し訓練している。また、避難先を提携福祉老人施設と決めている。非常持出の健康カルテと非常食を3日分備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の生活歴や病院、趣味嗜好を家族から聞き、ひとりひとりに合った声掛けを行うようにしている。	職員は利用者の希望に合わせ、尊厳を尊重した支援を行っている。介助を行う際は、意思疎通が難しい人にも必ず声を掛け、さりげなく対応する他、脱衣時やトイレ誘導などは羞恥心への配慮に努めている。個人情報に関わる書面は、事務所で管理している。個人情報の取り扱いについても、家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューやドライブの行き先などを利用者に相談し、施設での生活が楽しくなるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決めているが利用者の生活ペースに合わせて時間を調節するようにしている。職員は作業中であっても利用者の希望がある時には希望に寄り添う事を最優先としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、美容室の方が施設に来て散髪をしている。希望があれば行きつけの美容室への送迎も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを一緒に考ええる範囲で調理も一緒に行う事もある。調理ができない利用者には味見をして頂きできるだけ一緒に活動できるように努めている。	職員は、利用者の好みや旬の食材で、食材数も多く栄養バランスの良い献立を考え、調理している。利用者の咀嚼に合わせて盛り付け、本人の食欲を高めている。誕生日には刺身、敬老会や正月は豪華なメニューで祝いの雰囲気を楽しんでいる。家族会のBBQ、そうめん流しなど、みんなで食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日記録に残しメニューも職員が把握できるように管理している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯使用者は、取り外し、嗽と義歯洗浄を行っている。嗽用には殺菌効果のある緑茶を使用し口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ使用者も定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるようにしている。排泄の訴えができない利用者には表情や行動の変化を観察しトイレに誘導している。	事業所では、トイレでの座位による排泄を支援している。職員は、排泄支援状況を記録し、ケース会議にて、支援内容を検討し実施している。立ち上がりの支援方法、自立に向けた見守り、利用者の羞恥心に配慮した声掛けなど、個別のニーズに対応した支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し便秘しやすい利用者には水分を勧めたり、定期受診時に主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが希望や必要があれば、いつでも入浴できるようにしている。失禁があった時はシャワー浴を行うようにしている。	週3回入浴を支援している。入浴拒否には、無理強いせず、声掛けや時間を変えながら支援している。職員は、利用者の入浴習慣を優先し、できないことを支援している。2人介助や同性介助など状況に合わせた対応もある。毎日ホットタオル、入浴時に会話を楽しむなど、入浴の時間が楽しいものになるよう工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室には毛布を常備しておりいつでも好きな時に横になれるようにしている。自室で寝ている利用者には無理に起こさず一人の時間を大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者が服用している薬剤名、効果、副作用を理解し職員が管理しながら飲み忘れがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の準備をしたり、洗濯物たたみ、掃除といった家事を得意にされる利用者にも楽しんでいただいている。気分転換には園内、園外を散歩したり、隣の棟に遊び行ったりする事もある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に合わせてドライブや買い物に出かけている。また自宅へ帰宅するなどの支援を行っている。	職員は、利用者の意向を優先しながら、前庭の散歩や外気浴等、支援している。前庭に四季折々の花の栽培や飾りつけを行い、利用者が外に出ることを楽しめるよう工夫していることがわかる。ドライブでは、名所めぐりや馴染みの場所に出掛け、おやつを食べて帰るなど特別なひと時を過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者は預り金以外で自分で管理することもある。希望があれば買い物にも出かけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は出来る方は自分で掛けて頂いている。出来ない方には職員が掛けて要望など伝えるようにしている。施設にはipadを置いており家族や利用者から希望があればテレビ電話を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は毎日行い、快適に過ごせるようにしている浴室には冷暖房を設置しヒートショック予防に努めている。トイレや居間は場所がわかりやすいようにネームプレートや張り紙をしている	玄関の熱帯魚の水槽では鑑賞を楽しむことができ、リビングは職員による季節の飾りが華やかである。収納はカーテンを引き、見えない工夫がある。職員が行う調理の傍ら、談笑しながら利用者ができることを手伝っており、和やかな雰囲気である。清掃が行き届き、温湿度計による空調等、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには2人掛け、3人掛けのソファを設置し利用者がコミュニケーションを取りやすい環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族から今まで自宅で使用していた物を持って来て頂いたり、家族の写真を飾り利用者が落ち着いて過ごす事ができるようにしている	居室は、収納と洗面台を備えており、利用者が安らげるよう馴染みの物を持ち込みができる。筆筒やソファ等の家具の他、枕元には家族写真や時計、携帯電話がある。感染症に配慮し、ゾーニング用のルールを全室備えている。自室を清掃する利用者には見守りにて、自立を促す等、快適に過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、安全に利用できるようになっている。手すりを利用して歩行訓練や起立訓練も行う事もある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600531		
法人名	有限会社		
事業所名	(有)ことぶき会グループホームファミリーハウス おきな棟		
所在地	長崎県五島市吉田町3100番地1		
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 15 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ファミリーハウスではゆっくりとした雰囲気の中で利用者それぞれが時間を自由に使い、楽しく生活出来るように心がけている。日課は大きな行事以外はあえて決めておらず利用者が自分のやりたい事を選択できるようにしている。食事作りや洗濯物など利用者の方たちにも手伝っていただき生活の中で自分の役割を実感していただけるようにしている。行事を多く企画しており、初詣、節分、ひな祭り、花見、そうめん流し、七夕、敬老会、クリスマス忘年会など年間を通して楽しんでもらえるようにしている。また、それ以外にも保育園や日本舞踊などのボランティアも来られ、踊りや演奏をしてもらっている。玄関前には池があり利用者が餌をあげたり、外でおやつを食べたりすることができる。子供の日の前には鯉のぼりを設置し、地域の方々にも楽しんでもらえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員がいつも見れるよう、皆が集う居間に設置している。職員は事業所の理念について理解し、実践に努めている。一部の職員には、認知症実践者研修など外部研修に参加してもらい、認知症介護の理念も学んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。年に一度地域の方々が夜回りをしてくださっている。(来られる時は、必ず電話連絡がある)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者及びその家族、職員、取引業者様、ボランティア活動で来て下さった方々をお呼びして、交流会を実施している。ホームページでの情報発信も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度奇数月に開催している。定められた構成員でサービスの内容、評価への取り組みの報告を写真付きでわかりやすく説明している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報の収集や提供をしながら市役所の長寿介護課との連携を密にしている。わからないことはすぐに聞けるような体制をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はしないで、声掛けで納得していただいている。気を紛らわせるために、池の鯉を見に行ったり、散歩したり、隣の棟に遊びに行ったりということも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、施設内研修を行い、職員の虐待防止について理解を深めてもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する事案がずっとないので聞きに行ったりすることはないが、そういう状況になれば社協に相談したりして理解を深めるということはある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、重要事項説明書を事務員が対面により説明を行い、契約を行っている。改定などがあつた際は、書面にて説明文を送付し、契約書の取り直しをしている。日頃から疑問に思うことなど、電話や面会に来られた時に説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿にアンケート欄を設けており、気軽に意見要望が書けるようにしている。面会時には利用者の近況を説明しながら家族の意向を聞いたり、導き出すようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のケース会議、二ヶ月に一度の合同ケース会議でスタッフの意見を出してもらい処遇等を話し合ったり、テーマを設けて研修会をしたりしている。代表者や管理者は、日頃より職員が意見を言いやすい関係づくりをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が要望等を言いやすい関係性を作れていると思っている。全介護職員において、6月と11月に事業所独自の評価表にて評価を行い、その結果に応じて、処遇改善加算金による賞与をわたしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われるケース会議ではお互いに意見を出し合いケアの向上に努めている。島内の研修やオンライン研修など、参加できるものは参加するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の参加や島内研修会へ参加して交流意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各利用者との日常の会話や生活の様子を見ながら安心して生活ができるように支援し、要望や意見を聞くように努力している。そのための信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは入所時に時間を取り要望や利用者の生活歴を聞き、家族にとっても安心できるように努力し、面会時や随時利用者の様子を伝える様にしている。また、家族が要望等を気軽に聞くことができる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意思疎通の難しい利用者の必要としている支援は日頃の様子や態度から職員が判断し家族の要望は面会時などに話を聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を家族の一員と考え、一緒に買い物に行ったり、食事を作ったりと、家族のように生活をしているという実感を持って頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会時に利用者の日頃の様子を報告し、必要なことは協力要請するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が昔住んでいた場所や働いていた場所、友人宅を訪問し楽しく生活ができるように支援している。帰宅願望がある利用者は家族に連絡し帰宅支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の出来る事出来ない事を職員が把握し、洗濯物たたみや食事の準備、レクリエーションをして利用者間のコミュニケーションを取る様にしている。天候や季節に応じて複数でドライブなども行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の生活支援として他の施設に入所となる場合は、入所申し込みや施設の説明、紹介を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今、何が必要なのかを考え希望や要望が聞かれた時には速やかに要望を満たすようにしている。要望を訴える事が出来ない利用者は職員が生活の様子を観察し必要な事を考え、実行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から生活歴を聞き、入所後も自宅で生活している時と変わりがないように自宅の様子を再現したり馴染みの物を持って来てもらうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の残存機能を職員が把握し利用者が出来る事は自分でしてもらうように取り組んでいる。細かい時間設定は行わず利用者が自由に時間を使えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回全職員が集まって会議を行い、利用者個々に必要なケアについて意見やアイデアを出し合い、家族や利用者の要望を取り入れながら介護計画をたてている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに介護記録を書き、職員は必ず記録に目を通すようにしている。職員間の連絡ノートを作成し読んだらサインをするようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天候や季節に応じて利用者の希望を聞き、ドライブやピクニック、散歩に出掛けるようにしている。お盆やお彼岸には、希望があればお墓参りにも職員が同行する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの美容室から訪問してもらい散髪をしてもらったり、散歩時に畑仕事をしている近所の方と会話を楽しんだりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医の元を受診し、継続して家族や利用者が安心して健康管理ができるように取り組んでいる。受診時には職員が同行し連携がとれるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、利用者の体調の変化に気をつけ、記録はいつでも職員が見れるようにしている。受診時には記録を持参し主治医にも毎日のバイタル記録を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に主治医からの説明を家族と共に聞き、治療にかかる期間と治療方法を理解することによって早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎える前に主治医の説明を家族と共に聞き、今後の対応を話し合うようにしている。入所時に終末期の考えを家族に聞き意思を確認し、終末期が近づいた時点で再度確認する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員の指導の下、緊急時の救命法を学び、瞬時に適切な対応ができるように努力している。火災時の通報措置の使用方法や避難訓練も定期的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災訓練は定期的に行い、通報装置の使用方法や避難の手順などを、消防署員の指導の下、行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の生活歴や病歴、趣味嗜好を家族から聞き、ひとりひとりに合った声掛けを行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の献立やドライブの行き先など場面場面で個人の希望を尋ね、必要な時は職員側からいくつかの案を出して選んでもらうようにしたり、生きがいを持って楽しく生活ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝、起床時間や食事などは、利用者の生活ペースに合わせて時間を調節するようにしている。職員は作業の途中であっても利用者の希望がある時には、希望に添う事を最優先としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回近所の美容室より訪問散髪を行い、希望があれば利用者が希望する理容院へ送迎する事もある。好みのスキンケア用品や洗髪用品など希望があれば職員が買い物、あるいは一緒に買い物に行く事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を利用者と考えたり、一緒に買い物に行ったり、出来る範囲での調理や洗い物を手伝って頂いたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日記録に残し、献立も食材の細かい分量などを記録し職員が把握できるように管理している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯使用者は、取り外し嗽と入れ歯を洗っている。自分で洗浄歯磨き可能な利用者は見守りを行い、必要であれば介助をする。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ使用者も定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るようにしている。排泄の訴えが出来ない利用者は、表情の変化や行動を観察しトイレに誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を把握し、便秘しやすい利用者には水分を勧めたり、軽い運動を促し便秘予防に取り組んでいる。受診時に主治医に伝え、薬を処方して頂く事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、希望や必要があれば、いつでも入浴できるようにしている。失禁があった時にはシャワー浴を行う事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中皆が集まる談話室には、ひざ掛け等を常備しており、いつでも横になれるような環境にしている。居室で眠っている方は無理に起こさず、ひとりひとりの生活リズムを守るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者ごとに服用している薬剤名、効果、副作用などをまとめて綴り、職員がいつでも閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、読書、カラオケなどそれぞれ趣味や好きな事を自由にしていただき、日々を生き生きと過ごしていただいている。また、掃除や洗濯物たたみといった家事などを得意とされる利用者にも楽しんでいただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に合わせてドライブや買い物などに出掛けている。季節によっては墓参りや自宅へ帰宅するなどの支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される利用者に対して、少額のお金を所持していただいております。所持金は職員が把握している。家族から預かっている方にも、希望がある時は買い物に出掛けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話は出来る方は自分で掛けていただき、出来ない方は職員が変わりにかけて要望を伝えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は毎日行い、快適に利用できるようにしている。浴室は滑り止めマット使用にて転倒防止に努め、トイレは場所がわかりやすいように視線の高さに合わせた看板を設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには椅子やソファが多く、テーブルもある。ソファは二人掛け、三人掛けのものがあり、ベッドになるものもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族にも協力して頂き、馴染みの物や写真を飾り、自宅の雰囲気を楽しめるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、安全に利用できるようになっている。手すりを利用した歩行訓練や起立訓練も行っている。		